

日本あちこち河川遡行記（第 268 回）

奈良 1-4. 布留川（その 1） 前半 令和 1 年 5 月 31 日（金）曇り一時雨

大和川 4 番目の支流「^{ふるがわ}布留川」に出かける。



01.今回調査区間位置図

毎週金曜日の同じ時刻のこだまを使つての往復が続く。今日の指定席は満員の状況でたぶん旅行社が募集したツアー客が大勢乗っているのだろう。天理駅から乗るコミバスの時刻に合わせた旅なので、新大阪、難波、大和西大寺での乗り換え時間が少なく、速足での移動となる。何とか乗り継ぎが出来、西大寺からの天理行き直通電車に間に合う。

10 時 45 分近鉄天理駅に到着。盲腸線ではあるが 4 面 3 線の広い駅である。天理線内だけの折り返し電車以外にも西大寺行きや京都市行き急行もある。かつては大阪上六行きも有った駅で流石天理教の入り口である。JR の天理駅と共同管理の駅で、JR は高架駅となり単線ながら 2 面 4 線も有る堂々たる駅である。凄いのは駅の北方に 10 線以上の留置線が有ることで、かつては大祭などの時に日本全国から臨時団体専用列車がやって来ていた名残が有る。岡山の「里見川」遡行時に立ち寄った「金光駅」にも金光教団体列車専用ホームと留置線、それに専用改札口が有ったが、天理駅はスケールが違う。



02.近鉄天理駅は広い

まるで新幹線の駅のように見える駅舎を正面から見ると、右側に近鉄の入り口と近鉄の駅に有る「ファミリーマート」が並び、左側はJRとこれもJRの駅に有る「セブンイレブン」が並んでいる。タッグマッチの戦いだ！真ん中は駅の西側への自由通路である。コンビニに入り大和名物の「柿の葉寿司」を買っておく。近鉄で来たので当然FMでしょう！



04.JR 西は 7I と組んで



03.近鉄は FM とタッグを組んで



05.FM で柿の葉寿司を昼用に

バス乗り場に向かうと直ぐ前が天理市営のコミバス、「いちょう号」の乗り場である。市の西側を巡回する路線と東側の山の方に向かう「苜原線」が有りその苜原線の 11 時 05 分発に乗るのである。苜は「ちしや」と読む、難しいな奈良の地名は。すぐに全国共通仕様のワゴン車がやって来て乗車。今日は 4 名の地元のお婆さん達と一緒にだ。



06.11 時 05 分発苜原行きを待つ 07.天理市営コミバス、いちょう号に乗車

市内引き回しで町の見学もしながら山に向かう。国道 25 号（四日市～大阪梅田新道）の 2 車線を東から南へと進む。急坂を登ると天理ダムの左端のバス停に着き降車。ここまで 190 円也。経路は違うが奈良交通も走っているがこの時間帯には無いのでコミバスを利用した。両方が走る路線も珍しい。



08.天理ダムバス停で下車

国道はこの県営ダムの上を東に向かう。旧 1 級国道がダムの上を走るのはここだけかも知れない。こちらは自専道の「名阪国道」を補完するための一般道で、この天理から東の区間はもともとは県道だったのだ。別の谷間に自専道の

25号が出来たので2階級特進で国道になったのだ。なんとも形式主義の典型だ。ダムの上からは登って来た国道がすぐ下に見える。



09.国道 25 号がダムの上を通る



10.左上に国道 25 号が見える

多目的ダムからやって来た急坂道を下り逆遊行を開始する。60mほど曲がりくねった道を降りて来るとダム直下にやって来る。最初の橋「滝本橋」を見て国道の歩道を進む。車道境の舗装の隙間から綿毛がふわふわした草が並んでいる。因幡の白兔にあげたい姿である。



11.国道の眼前にダムが迫る



12.舗装の隙間から綿毛が顔を出す

滝本集落に来ると既に田植えの終わった田圃が現れる。

いくつかの橋を診て下って来ると国道は左岸側から少し離れ、右岸側の狭い道に当方は向かう。バスはこの狭い道をやって来たのだ。途中国道 25 号の標識が残って立っている。国道に昇格した当時の古い国道の証である。



13.田植えの済んだ田んぼが現れる



14.この狭い道がかつての国道！

「地蔵前」なるバス停の前にはそのお地蔵さんが大小並んでいる。腹掛ならぬ赤い大きな布を纏ってはるぞ。



15.「地蔵前」バス停の前にお地蔵さんが

川と道が西に向かうと天理市の浄水場が北側に広がる。ここが市の水源なのだ。



16.ダムからの水は天理市の水源

狭い溪谷を抜けると「東海自然歩道」の「山の辺の道」の案内板が道際に立ち、「石上神宮」の名が見える。今日はこの神宮に立ち寄るのも目的なので当然そちらに向かう。

〔 続く 〕